

2015年5月9日

投手の禁止事項の徹底

北関東連盟審判部
部長 金室 清二

今年度も春季大会、マイナー連盟大会が終了し、全日本選手権大会が大詰めを迎えています。今までの大会を通じて、投手の禁止事項が守られず、試合中に審判員から注意を受け、ボークやイリーガルピッチ（不正投球）が適用されています。

選手が試合中に注意を受けると、以降のピッチングに影響が出る場合が考えられますので、改めて禁止事項を確認して頂き、正しい投球の仕方を各リーグにて指導、徹底をお願い致します。

主な禁止事項（特に多くみられる禁止事項）

- ・サインを見るときに投手板に触れて（踏んで）いない。
⇒ 捕手からのサインは投手板を踏んで見ること。

- ・投手板を踏んだままバックの野手に声を掛ける。
⇒ バックの野手にアウトカウント等の声を掛ける場合は投手板から軸足を外すこと。

- ・ボールを投げる直前に、離れた投げ手を再びグラブに合わせる。
⇒ 投球動作に入ったら、一連の動作で投げなくてはならない。

お願い事項

- ・セットポジションで投球する場合、リトルリーグでは体の前で静止しなくても良いとなっていますが、今後も野球を続ける場合のことも考慮して、一般の野球のルール同様、静止する指導をお願い致します。
- ・連盟内の試合中においても審判からお願いを致しますので、ご了解をお願い致します。

以 上